

## 経営体の概要

- ・所在地：宮城県栗原市
- ・経営体名：農事組合法人 i ファーム
- ・栽培作物・作付面積：水稲・4.2ha、大豆・60ha、  
キャベツ・1ha、果樹(りんご・桃)・1.2ha
- ・従業員数：7名（令和6年5月現在）

## 導入技術

- ・スマートアシスト（ヤンマー（株））
- ・GNSSガイドランス（ヤンマー（株））
- ・農薬散布ドローン（DJI JAPAN（株））
- ・水稲センシング（（株）ファームアイ（委託））
- ・ロボットトラクター（ヤンマー（株））



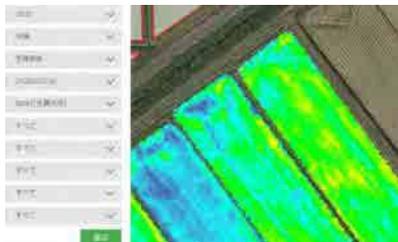
スマートアシスト



農薬散布ドローン



GNSSガイドランス



水稲センシング

## 導入経緯

- 集落営農組織をもとに平成27年に法人化、農業大学の新卒者ら3名を社員に加え経営面積を拡大。
- 農作業に熟練していない若い社員でも十分な生産性を確保できる大規模農業経営の確立を目指し、平成30年に県の「農業のカイゼンモデル経営体事業」で、スマートアシストとGNSSガイドランスを導入し、令和元年に「強い農業づくり交付金」で農薬散布ドローンを導入、令和元～2年に県の実証事業による水稲センシングを実施した。

## 取組の特徴・効果

- スマートアシストにより、500筆以上のほ場を社員がスマートフォンで確認しつつ作業進捗を管理できるようになった。今後は作業時間や使用資材のデータを活用し効率的な営農体制確立に取り組む。
- GNSSガイドランスにより、乗用作業機の操作に不慣れな社員でも適切な作業ができるようになった。
- 農薬散布ドローンは社員自らが操縦し、延面積約100ha以上の水稲カメムシ防除と大豆病害虫防除を適期内に実施することができた。
- 水稲センシングにより、生育量が小さく、生育改善が必要なほ場を特定、基肥設計の改善や追肥の実施により収量の向上を達成した。